

～親の仕事（意志）を継いで、自立経営～ 近藤 高行さん（西条市）

[所属]

愛媛県漁業協同組合壬生川支所所属 1992年生まれ
愛媛県青年漁業者連絡協議会 副会長
壬生川青年漁業者協議会 代表



☆経営概況☆

小型機船底びき網漁業（使用漁船 4.9トン）

漁場は瀬戸内海の燧灘（壬生川沖） 主な漁獲物はマダイ・ヒラメ・ハモ・ガザミ
エビ類・イカ類など季節によって多種多様

☆ここがポイント☆

○漁業は身近な存在 ～父親から学ぶ～

元々、父親と叔父が自前の漁船を持ち、小型機船底びき網漁業を経営していたことから、小さい頃から漁業は身近な存在でした。高校の夏休みに何度か父親の仕事を手伝いましたが、魚が沢山獲れた時の喜びと同時に、**こんなに大変な仕事を毎日頑張ってくれている父親の偉大さに気づき、漁業に憧れるようになりました。**こうした背景から、私自身、漁業を生業とすることに対して、迷いはありませんでした。

高校卒業後は、2011年から父親の漁船に見習いとして乗り込み、漁業のノウハウを10年間学びました。この間、師弟として父親から、操船技術や操業テクニックなど、こと細かな指導を受け、**漁業の厳しさ・面白さを実感する毎日でした。**

○独り立ち ～自らの手で切り開く～

父親や叔父の後押しもあり、2021年に**自らの船を建造して、小型機船底びき網漁業を自立経営することを決意しました。**現在は、これまでに学んだ経験を活かして、必死で操業していますが、今まで父親と二人でしていた仕事を一人でこなさなければならないため、帰港すると疲労困憊です。ですが、この仕事は**自分が頑張った分、収入にも反映されるので、漁業者になって良かったと、日々やりがいを実感しています。**

その一方で、資源の減少や魚価の低迷など、働いてみて初めて分かる漁業を取り巻く様々な課題も見えてきました。**こうした状況を乗り越え、将来に渡って長く漁業を続けるためにこれから何ができるか、日々考えながら海と向き合っています。**

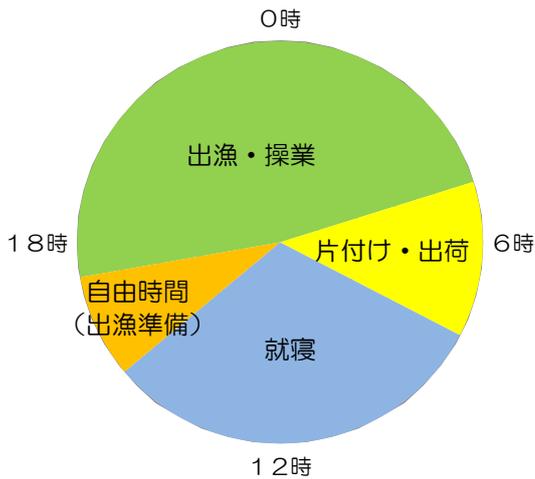


新造船（自己所有）の進水式



いざ、出漁！

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

月に20日程度、沖に出て操業しています。狙う魚にもよりますが、小型機船底びき網漁業は主に夜間に操業して昼間に就寝するという昼夜が逆転した生活です。大変な仕事ではありますが、**船を建造して独立したことで、漁業に対する責任感が芽生えました。**休日の土曜や、悪天候で沖に出られない日も、漁具の補修や地域の漁場を守る活動に参加するなど、今は漁業中心の生活ですが、その中でもなるべく時間を作って、家族や友人達と買い物や美味しいものを食べたり、自分だけのプライベートな時間を取ったりして、リフレッシュに努めています。忙しいなりに、**仕事(on)と休日(off)をメリハリ付けて過ごそう、心がけています。**

一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← 出漁 →				← 休日 →	← 出漁 →
【悪天候時】	← 漁具補修・漁船修理など →				← 休日 →	



沖での漁獲物の選別作業



百貨店での販売促進活動（父親と）

【これからの夢や目指すもの】～瀬戸内海（愛媛）の旬の魚介類を全国区に～

壬生川支所では、消費拡大・魚価向上を目的として、地先で獲れた様々な魚介類を毎月開催している大漁市で販売しているほか、ガザミやハモなどのブランド化にも力を入れています。今後はこうした取り組みを通じて、旬で新鮮な魚を自ら加工・販売できる体制を作り、**瀬戸内海の美味しい水産物を全国の皆さんに知ってもらい、ぜひ一人でも多くの方々に食べて頂きたいです。**

【メッセージ】～持続可能な漁業を目指して～

現在の瀬戸内海は、以前と比べて獲れる魚が減ったり、魚を育む藻場や干潟が失われるなど、様々な課題を抱えています。私自身、アマモ場の造成や卵を持ったガザミの再放流活動などに参加していますが、**これからは単に魚を獲るだけではなく、将来に渡って長く漁業を続けていくために、海や魚を守る活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。**今後は、地域の仲間や先輩漁師、県や市の方とも協力しながら、未来ある、魅力あふれる漁業を作っていきたいです。